

円光院は臨済宗妙心寺派の禅寺です

第70号
盆施餓鬼号

光明

佛曆 2566年 西曆 2023年

enkoin@gray.plala.or.jp
http://www16.plala.or.jp/enkoin/

題字 円光院第20世住職 武田浩而



無象静照筆 洞窟達磨図 鹿苑寺(金閣寺)蔵



『禅の知恵に学ぶ』の中から一部を抜粋して

お伝えいたします。

僧堂の接心のときなど、多い時では一日三〜四時間坐ります。では、長時間坐らなければ意味がないのかと言えば、そんなことはありません。

「一寸坐れば一寸の仏」という言葉があります。線香が一寸(約三センチ)燃える間でも、坐禅すればブツタと同じ心になれるとい

う意味です。

私は、禅のセミナーを行う際、講演の前に、会場の皆さんと必ず「五分坐禅」を行います。五分間だけでも、坐禅のエッセンスを体験していただくのです。

ぜひ皆さんも、毎日五分間だけでも、坐禅を実践してみてください。五分間しっかりと坐れば、五分の仏になれます。そこまでいなくても、心が落ち着き、視界がはつきりし、すっきりした気持ちになれます。これを毎日、何年も、何十年も続けていけば、人生は大きく変わるはずですよ。

私は、日本人の十人に一人が毎日、五分間の坐禅を行えば、日本は大きく変わると思っています。もちろん、長く坐れる人は、三十分、一時間と坐ると良いのですが、忙しくて時間が取れない人が大半でしょう。それなら、電車の中で座っている時、あるいは立っている時、二〜三分だけでも坐禅を試してみてください。いつでもどこでも「いながら禅」ですよ。

坐禅に一番適した時間帯は、黄昏時です。ちょうど昼間の活動期

から夜の休息期に移行する時で、大自然が寂然と安定し、自らも自然と心が静まります。僧堂では、日の入りの頃に昏鐘が鳴りますが、何をしてもそこで作業をやめて坐るのが決まりです。

皆さんは夕方になると、家路を急いだり、繁華街に繰り出したりするでしょうが、できれば公園などに寄って、少しの間、日の入りどきの中で静かに坐ってみてください。もちろん、電車の中でも、それこそ自宅のトイレでもいいのです。

肝心なのは、毎日同じ時間に行うこと。時々しかやらないことは「行」ではありません。「一寸坐れば一寸の仏」を、ぜひ試してみてください。
※黄昏→夕暮れ。たそがれ。



「天地と我と同根、万物と我と一体」

数ある修行の項目中で、いちばん修行になるのは、実は托鉢だと言われます。なぜなら、いろいろな境地を味わえるからです。

まず、托鉢に行くまでの道中で、山を見ながら野の小道を歩いていると、せせらぎの音が聞こえ、風が体を吹き抜けていきます。天気が良い日は、自然と一体になったかのような気持ちになれます。

『碧巖録』に「天地と我と同根、万物と我と一体」という言葉があります。「この世界も宇宙も、すべてこのいのちも、私と同じである」という意味の壮大な言葉です。坐禅をしている時も、この言葉を実感できる瞬間がありますが、自然の中を歩いていると、まさに「私は今、天地と同根、万物と一体だ」と身をもって感じられるのです。

また、托鉢をしていると、いやがおうでも世間と接触せざるを得ず、僧堂にはない幅広い経験ができます。ときに世間的には辛い目にも遭いますが、まさに良い修行になるわけで、その辛さ・厳しさ

に耐えて、一軒一軒、淡々とこなしているうちに、だんだん無心になってきます。無心で歩き、無心で喜捨を乞うているうちに、三味の境地に至れるのです。

特に正眼僧堂の修行僧は托鉢によって食の糧を得ていると実感できます。自分の力ではない、他の力で生かしていただいているのだと、肌で感じながら毎日の食事をありがたくいただくのです。

その大切な食べ物を、自分たちだけでいただくのは申し訳ない。そこで、他の生き物と分けあっています。食事の前に、おのおの数粒のご飯を取り分け、全員分集めるのです。これを「生飯」と言います。集めた生飯は、わずかですが小鳥や池の魚に餌として分けまします。生きとし生けるものと、「いのち」を分けあう。この精神こそまさに「天地と我と同根、万物と我と一体」になる修行なのです。



仏教のクライシス

檀家総代 郷 晃

「もう一度、日本を見つける」NHKTVの番組のテーマです。いったい、日本はどこにあるのか？だから、もう一度日本を見つけないと全国を取材に向かうのです。

（新日本風土記） いったい日本はどこに向かい、どこに行こうとしているのでしょうか。君の信仰している宗教は何かと尋ねれば、答えに窮してしまつたろう。神社の氏子、寺の檀家であっても明確な信仰行為になつていないかといえ、大半がただの行事や家族イベント感覚になつています。そして核家族化により、仏壇・神棚のない家庭が増えていきます。

日本人の信仰としての精神的寄り処がなくなつてしまつています。

日本の来し方、行く末？その基本たる生きる哲学の宗教・仏教を探し出かきましょう。

「菜路といふも草の名、茗荷といふも草の名、富貴自在、徳ありて冥加あらせたまえや」これは、江戸時代前期、箏曲の始祖八橋校（一六一四年）によつて作曲された、箏組唄表組第一曲目の「菜

路」の唄い初めの一節です。今でも、箏曲家なら演奏できなければならぬ大切な曲です。

「身近な植物を仏教の教えにかけて、徳を身につけ、富貴自在になれるよう、仏様の冥加があまりますように」と唄い信心を込めるのです。

又、三味線の地唄で名高い名曲「雪」の唄は、『花も雪も払えば清き袂かな、ほんに昔のおかしのことよ、わが待つ人もわれを待ちけむ。鶯の雄鳥に、もの思い羽の、凍る衾に鳴く音はさぞな、さなきだに、心も遠き夜半の鐘、聴くもさびしき独寝の、枕にひびくあられの音も、もしやといつそせきかねて、落つる涙のつららよりつらき命は惜しからねども、恋しき人は罪深く、思はぬことの悲しさに、捨てた憂き、捨てた浮世の山かづら』 仏門に入った女のせつない思をつづつています。仏教の思想があふれています。しんしんと降る雪の中、遠く鐘の音がきこえる。武原はんの地唄舞はその哀しいままで美しく、みる人の心を打ちました。鐘の音が心に響いているのです。

そして地唄「黒髪」でも「しんと更けゆく鐘の音くゆかしなつかし、やるせなや、つもとら

で、積もる白雪」寺の鐘の音に心を浄めるのです。

音曲の中に仏教の信仰が生きていた証です。仏教の無常観は、梵鐘の声を通じて、一切の哀感と崩壊を免れるように、仏・菩薩の慈悲にすがり、冥加あらせたまうと拝むのです。悲しみの連帯と涙こそ宗教だったのです。

近頃の日本人の生活に神や仏は死んだのでしょうか。結婚式はチャペルで愛を誓い、正月には神社でご利益祈願。そして、死んだら仏教で。

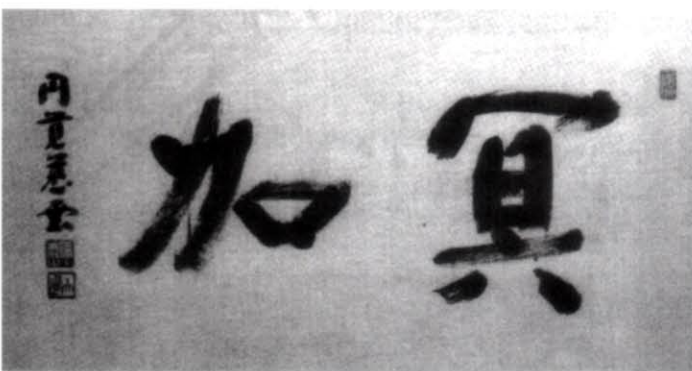
初詣、バレンタイン、三月の花の節句、七五三、端午の節句、六月茅の輪くぐり、七・八月のお盆さん、お彼岸、十月ハロウィン、十一月信玄公祭、十二月クリスマス、大晦日に第九の大合唱ハレルヤ唄って除夜の鐘。大宗教民族と言え。なんて信心深い国民と評される？たろう。宗教は人々に安らぎを与える一大サービス産業となり、モデルとしての宗教・観光としての宗教・商業としての宗教等、にぎやかです。

一方、地球は病んで、四苦八苦地球環境の悪化、民族・宗教紛争、戦争流血、南北貧富格差、食糧飢餓と危機。宗教としての仏教は解決の糸口

を示すことができるのだろうか。仏教の国、日本は、神・GODの原理を取り入れて競争社会になり、スポーツ化が進んでいます。弱肉強食社会と言えらるでしょう。

仏教では全て平等に、全ての生き物は大空間の中、皆で西方浄土に向かつて、皆で行く寛容な社会を求めています。死ぬや否や、そこに向かうのです。

今一度、仏教の原点、ブツダの言葉に立ち帰り、サイの角の如く一人、歩む。そして、『冥加あらせたまえ。』



円覚慈雲老大師の書です。

冥加とは、仏・菩薩から、人知れず、知らないうちに加護を受けることです。

おせがき 施餓鬼法要

円光院本堂

令和5年 7月16日(日)

「おせがき」とは、自分さえ良ければといった心を捨て、多くの有縁無縁の霊や人々に、真心の施しをすることと皆様の健康長寿をお祈りするのが施餓鬼会の心です。当日ご参加できない皆様におかれましても法要継続のため、お施餓鬼供養料にご協力お願いいたします。

生かされている今に感謝して、有縁無縁の霊や人々に、感謝の施しをしましょう。

■講演 午後1時30分 講師 愛媛県西予市三寶寺住職 福山宗徳師
 ■法要 午後2時45分

昭和46年生まれ。花園大学仏教学科卒業。大乗寺専門道場掛塔。平成18年布教師適任証取。現在、愛媛県西予市三寶寺住職。52歳。



- ・お施餓鬼法要 ・信玄公正室三条夫人453年毎歳忌
- ・檀信徒の皆様のご先祖供養 ・平和を祈る供養と法要
- 受付にて記念品をお受け取りください。(麦茶の用意があります。)
- 本堂より塔婆をお持ちになり、貴家の墓前にお立て下さい。

※当日お越しになれない方は、後日御来寺された時に貴家の墓所又は無縁墓所にお立てください。(秋彼岸までお願いいたします。)



迎え盆法要



令和5年 8月13日(日)

午後3時
～午後4時

☆庫裡にて迎え盆用のろうそくを販売しております☆

光明 盆施餓鬼号(第七十号)
 令和五年七月十六日発行
 発行所 臨濟宗 瑞巖山円光院
 編集人 妙心寺派 松土一郎
 渡邊 一隆
 内藤 一隆
 〒400-0101
 甲府市岩窪町五〇〇
 TEL(〇五五)二五三八二四四
 FAX(〇五五)二五三八二四四

新盆(にいぼん)の檀家さんは8月14日(月)に棚経(たなぎょう)におうかがい致します。訪問予定は8月1日までに円光院庫裡前に表示します。詳しくは円光院(055-253-8144)にお電話下さい。